

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	関係法規・制度	授業方法	講義
開講学期	前期	年間授業	20時間（2年次10時間履修）
授業単位数	1(2年次と履修時間と合わせて)	必修・選択区分	必修
担当者	北村 千草	実務経験のある教員	○
実務内容	創価大法学部法律学科卒業		
テキスト	『関係法規・制度』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として必要な関係法規・制度を理解する		
	理容師法の定める行うべき業務と法の目的を学ぶ		
授業概要	法制度と衛生行政の概要の理解を図る		
	理容師法の役割と人や施設に関する規定、行政処分等の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	法制度の概要	社会生活における法の役割と形式を学ぶ	
5～8	法制度の概要	衛生法規の意義と分類・付属法令を学ぶ	
9～12	衛生行政の概要	衛生行政の意義と歴史・分類と生活衛生行政の内容の理解を深める	
13～15	衛生行政の概要	衛生行政を担う行政機関について学ぶ	
	理容師法	美容師法の目的・用語の定義を理解する	
16～19	理容師法	人（理容師）に対する規定を理解する	
20	総まとめテスト		
到達目標	理容師として必要な関係法規及び制度を理解し社会との関係を深める		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	関係法規・制度	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	10時間（1年次20時間履修）
授業単位数	1（1年次履修と合わせて）	必修・選択区分	必修
担当者	北村 千草	実務経験のある教員	○
実務内容	創価大学法学部法律学科卒業		
テキスト	『関係法規・制度』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として必要な関係法規・制度を理解する 理容師法の定める行うべき業務と法の目的を学ぶ		
授業概要	法制度と衛生行政の概要の理解を図る 理容師法の役割と人や施設に関する規定、行政処分等の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	まとめ	1年の振り返り授業	
5～7	美容師法	施設（美容所）に関する規定を理解する	
8～9	美容師法	立入検査と環境衛生監視員・行政処分・罰則・関連法規を理解する	
10	総まとめテスト	1年次よりの振り返り授業及び「国家試験対策	
到達目標	理容師として必要な関係法規及び制度を理解し社会との関係を深める		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	衛生管理	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	60時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	高野 敏彰	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般（カット・パーマ・ヘアカラー等）		
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として必要な感染症の的確な知識、技能を習得する 代表的な感染症の病原体、感染源、感染経路、症状、予防対策などを理解する		
授業概要	公衆衛生学、微生物学の歴史と感染症の法律上の分類方法などから感染症の体系の理解を図る 美容の業務に必要な衛生管理の知識の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1	公衆衛生の意義と課題	健康の意義を理解する	
2～3	公衆衛生の発展の歴史	欧米や我が国の公衆衛生・消毒法にかかる歴史と歴史上の人物を学ぶ	
4～5	保健所と理容業美容業	保健所の機能と事業について把握する	
6～9	母子保健	母子保健の意義や健康管理を学ぶ	
10～13	成人・高齢者保健	生活習慣病、高齢者の保健と福祉、介護保険制度について学ぶ	
14～15	精神保健	精神保健行政について学ぶ	
16～19	環境衛生の概要	環境とは何かを理解する	
20～22	空気環境	空気や大気環境を学ぶ	
23～24	温度湿度気流と健康	健康で快適な生活について学ぶ	
25～26	衣服の衛生	衣服についての特性を理解する	
27～30	住居の衛生	住居の重要性について学ぶ	
31～32	上下水道と廃棄物	公衆衛生の基盤としての上下水道廃棄物の処理システムを理解する	
33～34	衛生害虫とネズミ	健康を害する鼠族、昆虫等の対策を学ぶ・各種公害について学ぶ	
35～36	環境保全	具体的な衛生管理の概要について理解する	
37	テスト	前期まとめ	
38～42	人と感染症	感染症と人の歴史を学ぶ	
43～44	感染症と種類の分類	感染症の各分類と侵入媒介経路などを理解する	
45～46	病原微生物	微生物の種類、形や大きさを理解する	
47～48	病原微生物	微生物の構造と増殖や環境の影響を理解する	
49～50	感染症の予防	病原性と人体の感受性、汚染・感染・発病の成り立ちを理解する 免疫と予防接種による発病予防の仕組みを理解する	
51～53	美容と感染症	美容師の健康管理と感染症の基礎知識の重要性を理解する	
54～55	空気・飛沫感染	結核・ジフテリア・サース・マーズ・鳥インフルエンザを理解する インフルエンザ・麻疹・百日咳・風しんの理解を深める	
56～57	飲食物を介して感染 血液等感染症	細菌性赤痢・腸管出血性大腸菌感染症・A型肝炎を理解する B型肝炎・C型肝炎・エイズ・梅毒・動物等による感染症を学ぶ	
58～59	予防対策	美容所での予防対策を学ぶ	
60	テスト		
到達目標	美容師として必要な衛生における知識の理解を深める		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	衛生管理	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	高野 敏彰	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般（カット・パーマ・ヘアカラー等）		
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として必要な感染症の的確な知識、技能を習得する 代表的な感染症の病原体、感染源、感染経路、症状、予防対策などを理解する		
授業概要	公衆衛生学、微生物学、の歴史を知り感染症の法律上の分類方法などから感染症の体系の理解を図り美容の業務に必要な衛生管理の知識の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	公衆衛生	美容師と公衆衛生は非常に深いかわりについて学ぶ。	
	環境衛生	環境が自然や人々の健康に及ぼす影響を学び、社会の一員として適切な行動ができるよう学ぶ。	
8～14	感染症総論	お客又は従業者を通じて伝播する危険性のある感染症についての的確な知識や技能を学ぶ。	
	感染症各論	代表的な感染症について、病原体、感染源、感染経路、症状、予防対策などを学ぶ。	
15～21	消毒法総論	美容業務と消毒との関係を論理的に学ぶ	
	消毒法各論	規則に定められた個々の消毒法に関する正確な知識を学ぶ	
	消毒法実習	消毒薬の正確な希釈技術を学ぶ。	
	衛生管理の実践例	衛生管理要領を具体的な事例を交えて学ぶ。	
23～29	総まとめ	衛生管理全般の振り返り授業及び国家試験対策	
30	テスト		
到達目標	美容師として必要な衛生における知識の理解を深める		
評価方法	1・学期末テスト 90% ②・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	保健 (人体の構造及び機能)	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	60時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	杓谷 知里	実務経験のある教員	○
実務内容	薬剤師 グリーンファーマシー ひまわり薬局 高知店		
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験に向けて、人体の構造や機能について頭頸部を中心に学び、理解を深める。 保健衛生分野の職業である美容師に必要な解剖学や生理学について学ぶ。		
授業概要	人体の構造や機能を全体的に学び理解を深める。必要に応じてプリントなどを使用し理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～2	はじめに	授業の概要・人体の構造と機能	
3～6	人体各部の名称	人体各部の主な名称を(9つの部位)や、体の面と方向を学ぶ	
7～13	頭部・顔部・頸部	頭部・顔部・頸部の体表解剖学	
14～16	顔面	眼・耳・鼻・口とその周辺の特徴を学ぶ	
17～22	骨格器系	骨の種類と構造 ・ 骨の連結 骨格器系とそのはたらき(頭蓋・脊柱・胸郭)	
23～29	筋系	筋の種類とその特徴(筋の種類の表)、主な骨格筋とそのはたらき 表情筋と表情運動(眼・口・鼻や耳を中心とした筋の動き)	
30	前期テスト		
31～34	神経系	神経系の成り立ち(神経大別の表)や中枢神経とそのはたらき 末梢神経のはたらき(自律神経系支配の効果の表)や仕組み	
35～40	感覚器系	視覚・聴覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚	
41～45	血液・循環器系	血液のあらまし・各血球成分の役割 血液循環のあらまし(心臓を中心とした循環を理解)	
46～50	呼吸器系	呼吸器系のあらまし・肺の仕組みとガス交換	
51～59	消化器系	消化器系のあらまし・消化管の仕組み 消化管の働き・消化と物質代謝	
60	後期テスト		
到達目標	美容師として必要な人体の構造や生理解剖学的な知識を系統的に理解を深める		
評価方法	1. 学期末テスト 90% 2. 出席状況 5% 3. 学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(60～69)・不可(59以下)の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	保健（皮膚科学）	授業方法	講義
開講学期	前期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	仲田 大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『保健』 日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験に向けて、皮膚の構造機能について、理解を深める。 保健衛生分野の職業である美容師に必要な皮膚の構造について学ぶ。		
授業概要	直接接触する機会が多い皮膚の構造から皮膚疾患までを学ぶ。また、様々な薬剤を使用することから皮膚の状態についても詳しい理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	はじめに	これから学ぶ『皮膚』についての重要性を学ぶ	
	皮膚の構造	皮膚は体内でも最も大きな器官であることを知る	
	皮膚の表面	表皮・真皮・皮下組織の構造を学ぶ	
	皮膚の断面	角化細胞・色素細胞・ランゲルハンス細胞の機能を学ぶ	
5～8	皮膚付属器官の構造	皮膚の構造や皮膚付属器官について学ぶ	
	毛 立毛筋 汗腺	毛の構造・毛の生長周期・毛の変化の理解を深める	
9～12	皮膚の循環	皮膚に十分な栄養を送り老廃物を取り除くリンパの働きを知る	
	皮膚の血管	皮膚血管の分布や働きについて学ぶ	
	皮膚のリンパ管	皮膚リンパはマッサージや、つぼの効果について学ぶ	
13～15	皮膚付属器官の生理機能	皮膚の働きについて理解を深める	
	対外保護作用	機械的外力に対する保護作用、角質層、膠原線維、弾性線維の特徴を理解を深める	
	分泌排泄作用	皮脂の分泌、汗の分泌が体温調節や皮膚の生理作用を理解	
16～19	付属器官の保健	皮膚に付属する器官について学ぶ	
	皮膚と全身状態	体の内部の健康状態に深い影響を受けいろいろな変化を学ぶ	
	皮膚と体内病変	肝臓障害・腎臓炎・胃腸障害等と皮膚の変化を学ぶ	
20～29	付属器官の疾患	原発疹・続発疹の特徴を知る	
	皮膚疾患の原因	アレルギー現象とはなにかを理解する	
	皮膚疾患の治療法	薬物の内服や注射、食事療法などを学ぶ	
	温熱・寒冷による皮膚疾患	熱傷の段階、凍傷、凍瘡の障害具合を学ぶ	
30	化膿菌・ウイルス 真菌	細菌や化膿菌、真菌による皮膚疾患を学ぶ	
	テスト		
到達目標	美容師として必要な皮膚と毛髪や爪などの付属器官などの知識、及び皮膚疾患等の知識を深める		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。 合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	化粧品化学	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	森澤佐枝・仲田大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般・理容業務全般（カット・パーマ・ヘアカラー等）		
テキスト	化粧品化学 公益社団法人 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師に必要な化粧品化学分野の理解を深め、理容技術を高め安全に行う国家資格取得のための実力を養います。		
授業概要	テキストに沿って、化粧品概論、原料、基礎化粧品の順に講義し理解を図る		
授 業 計 画			
回	項目	内容	
1～12	化粧品概論	化粧品の社会的意義と品質特性を学ぶ 化粧品の定義や製造販売、品質、表示等の規制の理解を深める 化粧品の安全性と取り扱い上の注意事項を学ぶ 化粧品の安全性や表示成分、トラブル等を学ぶ	
13～19	化粧品原料	化粧品の対象となる人体各部の性状の知識を深める 水性顔料の種類と特性を学ぶ 油性顔料の種類と機能を学ぶ	
20～27	化粧品原料	界面活性剤の基本的な性質と種類と化粧品への応用を学ぶ 高分子化合物の種類と特性、化粧品への応用を学ぶ	
28～29	化粧品原料	色材と化粧品の関係や種類特性を学ぶ 香料の種類と調合等を学ぶ その他の配合成分として品質保持成分や特殊成分を学ぶ ネイル、まつ毛エクステンション用材料について知識を深める	
30	テスト		
到達目標	美容師として必要な化粧品の原料や種類、使用方法や安全性などを理解する		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3. 受講の態度（小テスト等の提出物）5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	化粧品化学	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	森澤佐枝・仲田大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般・理容業全般(カット・パーマ・ウェーブ・ヘアカラー等)		
テキスト	化粧品化学 公益社団法人 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師に必要な化粧品化学分野の理解を深め美容技術を高め安全に行う国家資格取得のための実力を養います。		
授業概要	テキストに沿って、1年次の続きの第3章基礎化粧品、メイクアップ化粧品の順に講義し理解を図る		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～5	基礎化粧品	皮膚洗浄用化粧品の種類と作用と性質について学ぶ 化粧水の種類と機能性を理解する クリームと乳液の種類と機能、皮膚への作用について学ぶ その他の基礎化粧品、美容液やパック剤について学ぶ	
6～9	メイクアップ化粧品	メイクアップ用化粧品の種類と剤形について学ぶ ベースメイクアップ化粧品について学ぶ ポイントメイクアップについて学ぶ	
10～14	頭皮・毛髪用化粧品	シャンプー剤、ヘアリンス、ヘアトリートメント剤について理解を深める スタイリング剤の機能と性状等を学ぶ	
15～19	頭皮・毛髪用化粧品	パーマ剤の原理と分類、1剤と2剤の成分や使用上の注意を学ぶ ヘアカラー製品の種類と染毛のメカニズム、種類と注意事項を学ぶ 育毛剤の種類と機能及び原料、脱毛の原因、養毛剤の原料を学ぶ	
20～21	芳香製品	芳香製品の種類や効用と使用上の注意を学ぶ	
22～23	特殊化粧品	日焼け止め製品、美白用化粧品、制汗・防臭剤、ニキビ化粧品の学ぶ	
24～29	化粧品を理解するための基礎科学	物質の構成と構造、溶解とコロイドの定義について学ぶ 水素イオン指数、物質の変化と科学反応、酸化と還元について学ぶ	
30	テスト		
到達目標	美容師として必要な化粧品や薬剤などの種類や成分、または危険性などを理解する		
評価方法	1・学期末テスト90% 2・出席状況 5% 3. 受講の態度(小テスト等の提出物) 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	文化論	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	清藤 千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『文化論』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容美容の語義や歴史を学び日本のファッション文化史及び西洋のファッション文化史を学び現代までの変遷を学び理解する。また礼装における和と洋の違いと文化を学ぶ		
授業概要	「理容・美容」とは何か、価値観や美意識の多様化やニーズの文化と歴史と変遷を学びながら日本と西洋の相違点と融合の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～14	総論・日本理容美容の歴史	理容業・美容業の発生の成り立ちを学ぶ 理容業・美容業（江戸時代・近代現代）を理解する 理容業、美容業の歴史の理解を深める 縄文・弥生・古墳時代、古代（飛鳥・奈良・平安）中世（平安末・鎌倉・室町・戦国）について学ぶ	
15～22	ファッション文化史・日本編	近世（戦国末・安土桃山）（江戸時代）について学ぶ	
23～29	ファッション文化史・西洋編	古代エジプト・ギリシャ・ローマ・ゲルマンの髪型、服装、化粧を学ぶ 近世（16～18世紀）の髪型や服装等時代背景を学ぶ 近代（18世紀末～19世紀）の髪型や服装等時代背景を学ぶ	
30	テスト		
到達目標	美容師の歴史や流行等を知り、今後のライフスタイルに生かす		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	文化論	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	清藤 千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『文化論』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容美容の語義や歴史を学び日本のファッション文化史及び西洋のファッション文化史を学び現代までの変遷を学び理解する。また礼装における和と洋の違いと文化を学ぶ		
授業概要	「理容」「美容」とは何か。価値観や美意識の多様化やニーズの文化と歴史と変遷を学びながら日本と西洋の相違点と融合の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～14	ファッション文化史・日本編	近代（明治・大正・昭和）	
		現代（1945年～1970年）のファッション文化史の理解を深める	
		現代（1980年～1990年）（2000年代以降）の流行を学ぶ	
15～18	ファッション文化史・西洋編	現代（1910～1950年）の髪型や服装化粧の変遷を学ぶ	
		現代（1960～2010年）の髪型や服装化粧の変遷を学ぶ	
19～29	礼装の種類	和装と洋装の男女の種類と礼装、準礼装等を学ぶ	
30	テスト		
到達目標	理容師、美容師の歴史や流行等を知り、今後のライフスタイルに生かす		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理
授業科目	運営管理	授業方法	講
開講学期	後期	年間授業	30時
授業単位数	1	必修・選択区分	必
担当者	高野 敏彰	実務経験のある教員	(
実務内容	美容業務全般（カット・パーマ・ヘアカラー等）		
テキスト	『運営管理』公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として働いていく上で、また自分の店を持つまでの知識を高め、経営管理や労務管理など経営者と従業員それぞれの立場の理解を深める		
授業概要	接客の仕方から市場における経営戦略、サービスの提供などを理解し経営者の視点で規則などの労務管理や自分の働く姿、社会人としての将来設計の理解を図る		
時間外学習	赤字およびアンダーラインを付したフレーズは必ずノートに転記しておき時間外に復		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	経営とは、経営者とは	経営や経営者について基本的な考え方を学び経営の要点を学ぶ。	
5～8	理容業・美容業の経営について	経営や経営戦略を具体的に理解していく視点から現状を把	
9～11	資金の管理	経営資源の流れを見ることで、経営の状況を判断するため	
12～14	人という資源	最も貴重で最も管理の難しい経営資源が人。 人を管理するための取り組み労務管理について学ぶ。	
15～17	健康・安全な職場環境の実践	経営者は従業員の健康を守る責任について学ぶ。	
18～20	従業員としての視点から	資格を取得して1人の社会人として従業員として果たす責任	
21～24	サービス・デザイン	顧客が望むことをかなえるための取り組み、サービスにつ	
25～27	マーケティング	積極的に顧客を引き付けていくためにどのような努力をす 学ぶ。	
28～29	サービスにおける人の役割	顧客に望まれるサービスを提供するために果たさなければ いて学ぶ。	
30	テスト		
到達目標	最大のパートナーであるお客様の信頼を得るための知識や経営者としての知識の理解		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下） 記す。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	国家試験必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める。		

・2

義

寺間

修

〇

の就業

習する。

握していく。

の指標となる。

王について学ぶ。

いて学ぶ。

べきかについて

ならない役割につ

を深める

以下) の5段階で表

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	理容技術理論	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	60時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	仲田大吾郎・清藤千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論①②』公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として最低限必要な理論技術を理解し実践にて応用できる力を身に付ける 理論を理解し効率よい教育方法を行い技術を習得する。		
授業概要	技術を習得するには時間がかかるが、理容技術の意義を十分理解すれば技能の習得ができる。		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	はじめに	理容の意義、職業としての理容の役割と衛生に関する知識を学ぶ	
5～7	人体各部の名称	理容技術は人の頭部・顔部に手を使って施術を行う対象となる各部の名称を正しく覚える	
8～10	理容技術の基礎・設備	技術部位に対する位置を学ぶ	
11～17	パーマメントセット	パーマの考え方や用剤の種類・特徴・かかる仕組みを理解する	
18～21	理容用具	理容師として理容用具を学ぶにあたり、人体と用具との関係を理解する 用具についての基礎的な知識を学び、理解を深める	
22～28	ヘアカッティング	ヘアスタイルを実際に作る手段としてカッティング技術の必要性を学ぶ その技術を十分理解してカッティング技術理論を学ぶ ヘアスタイルを作るための基本的な原則を理解する	
29	テスト		
30～35	まとめ	前期授業の振り返り	
36～46	理容エステティック	エステ本来の目的、人間の内面的な部分に及ぶ総合的な技術である事を学ぶ 肌の状態・機器についても十分な理解をする。	
47～50	ヘアカラーリング	染毛剤によって毛髪に様々な色彩をあたえ、ヘアスタイルや服装・生活に調和した美を表現することを学ぶ	
51～55	シャンプーイング	シャンプーは毛髪美容の基本である。頭皮・毛髪の清潔を保つことの意義を学ぶ シャンプー剤や技法について科学的理解を高めること学ぶ	
56～59	シェービング	シェービングはカッティングとならんで理容の主要な技術で シェービングにおける技術を行うにあたり皮膚と髭を十分理解する	
60	テスト		
到達目標	理容師として必要な技術理論を理解する		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	理容技術理論	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	90時間
授業単位数	3	必修・選択区分	必修
担当者	仲田大吾郎・清藤千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論①②』公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験に向けて理容技術の理論を学ぶ。 理論を理解し効率よい教育方法を行い技術を習得する。		
授業概要	技術を習得するには時間がかかるが、理容技術の意義を十分理解すれば技能の習得ができる。		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1	はじめに	理容の意義、職業としての理容の役割や衛生に関する知識を身に付ける	
2～5	理容用具	鋏・コーム・ブラシなどの名称や構造を学ぶ。 バリカン・レザー・アイロンの名称や構造を学ぶ。	
6～9	ヘアーデザイン	ヘアデザインの条件を考えヘアスタイルを決めていく。 スタンダードヘアやデザインヘアの違いなどを学ぶ	
10～14	ヘアカット	カットに入る前の準備はヘアスタイルを決定することを学ぶ。 スタンダードヘアの基本原則を理解すること。 用具の正しい持ち方と操作方法を身につける。	
15～19	ヘアセッティング	ヘアスタイルを作る重要な技術、その技術を習得する。 毛髪のクリニクの知識・デザイン感覚を学ぶ。 整髪料・ブラシ・ドライヤー・アイロン・薬液処理などのヘアセッティングを勉強する。	
20～34	パーマセット	正しい理論と技術や感性によってお客様の満足のいく理想のスタイルを作る。 アイパー・アイロンパーマなどの技術のプロセスを学ぶ。	
35～42	まとめ・小テスト	振り返り	
35	テスト		
36～40	ヘアトリートメント	毛髪に対する処置や手当を行う技術であることを知る。 トリートメント剤の選定、効果を引き出す知識を習得する	
41～45	理容マッサージ	理容マッサージはリラクゼーション効果を目的とした快感技術であることを理解する 人体の構造である骨格・筋肉・つばの知識の必要性を理解する	
46～55	スカルプトリートメント	頭皮の保護処置でもあるスカルプトリートメントを正しく理解する。 スカルプトリートメントの目的、技術を習得する	
55～59	まとめ・小テスト	振り返り	
60	テスト		
到達目標	理容師としての基礎技術に関する理論技術を身に付ける		
評価方法	1・学期末テスト 90%    2・出席状況 5%    3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	理容実習	授業方法	実習
開講学期	前期・後期	年間授業	390時間
授業単位数	13	必修・選択区分	必修
担当者	清藤千秋・仲田大吾郎		
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容実習①②』 公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験にかかる技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付ける技術への科学的根拠を理解し安全で安心な理容技術者としての育成を図る		
授業概要	理容技術における作業姿勢、用具の知識を学びそれらを使った様々な技術を実習 カッティング・ワインディング、パーマメント・ウェービング、ネイル、シャンプー、カラー、エステティック技術等		
時間外学習	校外実習において理容師としての基礎的技術及び接客の理解を深める		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	導入	理容技術における基本姿勢・用具説明・扱い方・実践	
15～236	パーマメントウェービング	ブロッキング技術・方向と手順・ワインディング・ロットの選定 ロットの角度と方向・コーミング技術 タイムトライアル 大会指導（Cライン巻き）	
	デザインヘア	ブロッキング/デザインカットの基礎技術	
	スタンダードヘア	ミディアムスタイル/ブロースのカットシステム及び技術姿勢を十分に理解し技能を身につける。	
237～244	テスト	ワインディング技術	
245～294	フェイシャルトリートメント	作業位置/タオルの基本的持ち方/てん包・密着・清拭法 塗布/マッサージ/拭き取り スキンケア	
295～332	シェービング	メンズネック・シェービング、ウィッグ及び相モデルによる演習 レディースシェービング	
	シャンプーイング&リンシング	スタンダードシャンプー/バックシャンプー	
383～390	テスト	シェービング及びフェイシャルトリートメント	
到達目標	国家試験の合格を目標とする。		
評価方法	1・技術確認テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	国家試験必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める。		

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	理容実習	授業方法	実技
開講学期	前期・後期	年間授業	510時間
授業単位数	17	必修・選択区分	必修
担当者	仲田大吾郎・清藤千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容実習①②』公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験にかかる技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術の習得 技術への科学的根拠を理解し安全で安心な理容技術者としての育成を図る		
授業概要	理容技術における作業姿勢、用具の知識を学びそれらを使った様々な技術を実習 カッティング・ワインディング、パーマメント・ウェービング、ネイル、シャンプー、カラー、エステティック技術等		
時間外学習	理容師としての基礎的技術の理解を深める		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～105	ヘアデザイン	丸刈り・短髪型・ブロース・クラシカルカットなど基礎的技術を学ぶ。	
106～157	大会練習	各競技種目練習・タイムトライアル	
158～172	小テスト	カット技術	
173～254	学生大会	学生大会参加及び見学	
255～262	テスト		
263～297	シェービングなど	フェイシャルトリートメント（1年次の復習）	
298～434	スタンダードヘア・ヘアセッティング・シェービング・フェイシャルトリートメント	国家試験受験対する総合復習。	
435～442	テスト	国家試験課題全般	
443～510	国家試験対策	タイムトライアル（試験同様の形態で対策を行う。）	
到達目標	国家試験の合格を目標とする。		
評価方法	1・技術確認テスト 90%    2・出席状況 5%    3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	国家試験必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	接客マナー	授業方法	講義
開講学期	前期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	選択一般
担当者	北村 和代	実務経験のある教員	○
実務内容	office K&K代表、接客マナー講師、社員教育講師、シビルウェディングミニスター		
テキスト	早稲田教育出版 『サービス接客検定・問題集』 ナツメ社 『サービス接客検定集中レッスン&問題集』		
教育目標	グローバル化が進む昨今何よりもきめ細かなサービスを身につけると共にお客様に対する考え方やおもてなしの形について学び検定を目指します		
授業概要	質の高いサービス「おもてなし」の心と型、現場でより良いサービスの提供ができるようテキストに沿いながら、実技も交えた講義 接客業を行う上でのサービス技術の理解を図る		
時間外学習	出題例などを利用し自分の技能レベルを確認する。		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	はじめに	まえがき・検定の受け方について理解する	
	必要とされる要件	明るさ、誠実さ、適切な判断と表現、身だしなみを理解する	
5～7	従業要件	良識ある素直な態度、協調性ある行動、清潔感、忍耐力について学ぶ	
	サービス知識	意義、技能、種類について理解する	
8～11	従業知識	商業・経済活動、商業・経済用語を学ぶ 社会常識・時事問題を理解する	
12～15	人間関係	人間関係の対処について理解を深める	
16～19	接客知識	顧客心理の理解、一般的マナー、接客者としてのマナーについて学ぶ	
20～24	話し方	接客用語、話し方、提示・説明の仕方について学ぶ・適切な服装を学ぶ	
25～28	問題処理	お客様からの苦情・問い合わせ・相談や要望・注文などの対応能力について学ぶ	
	環境整備	店舗や周辺の清潔で整然とした状態にできるよう学ぶ	
	金品管理	金品管理のプロセスを正確・安全・丁寧に行えるよう学ぶ	
	社交業務	慶事や弔事に関する知識に基づいた対応やマナーを学ぶ	
	過去問題		
29～30	振り返り	一般常識・時事問題・接客業について受講する	
到達目標	サービス業務に携わるためお客様に対する心構え、対応の知識や技能を身に付けプロのサービススタッフとして評価され育つことを目指す。 また、3級及び2級の取得を目指し接客マナーの理解を深める。		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)良(79～70)・可(69～60)・不可(59以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする。		
履修上の注意	過去の出題傾向などから必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	総合教養	授業方法	講義
開講学期	前期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	選択一般
担当者	仲田 大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	開講時に担当教員が指示及び配布する		
教育目標	「自分」と「将来」を見つけるために研究し理解する		
授業概要	確かな基礎知識・技術に加え考えるための道具＝方法を身に付け個の可能性を無限に広げ学ぶ喜びを図り業界や異業種の講師を迎え講話等を行い働く意義の等の理解を図る		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	はじめに	オリエンテーション	
5～8	講話	初年度セミナー・コミュニケーション能力向上に向けた講話	
9～16	講話・ワークショップ	初年度セミナー・先輩理美容師の人生を聞き目指す理美容師像を描く	
17～24	スポーツ大会	基礎的な体力づくりや各学年間でコミュニケーションを図る	
24～30	講話・ワークショップ	前期の振り返り・発表 社会人として必要な教養の基礎をを改めて学びなおし理解を深める	
到達目標	美容師として必要な基礎的な教養などを身につける。		
評価方法	1・作文提出 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする。		
履修上の注意			

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	総合教養	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	60時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択一般
担当者	近藤 邦夫	実務経験のある教員	○
実務内容	銀行員・専門学校校長		
テキスト	開講時に担当教員が指示及び配布する		
教育目標	「自分」と「将来」を見つけるために研究し理解する		
授業概要	確かな基礎知識・技術に加え考えるための道具＝方法を身に付け個の可能性を無限に広げ学ぶ喜びを図り業界や異業種の講師を迎え講話等を行い働く意義などの理解を図る		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	はじめに	オリエンテーション	
5～11	講話	初年度セミナー・就職活動に向けた講話	
12～27	講話	初年度セミナー・今を有意義なものにする思考法、働くことの意義など	
28～37	ワークショップ	初年度セミナー・先輩理美容師の人生を聞き目指す理美容師像を描く	
38～45	スポーツ大会	基礎的な体力づくりや各学年間でコミュニケーションを図る	
46～55	各種大会の練習	自主性と取り組むことの大切さを学び理解する	
56～60	振り返り	前期の振り返り・発表	
到達目標	理容師に必要な基本的教養・社会人になるための基礎知識の理解を深める		
評価方法	1・ 作文提出90%    2・出席状況 5%    3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする。		
履修上の注意			

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	カラーワーク (カラー・シャンプー)	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	60時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	仲田大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般 (カット・パーマメント・ヘアカラー等)		
テキスト	『理容・美容理論』『理容・美容実習』1 日本理容美容教育センター		
教育目標	ヘアカラーとシャンプーング技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付け安全で安心な美容技術者としての育成を図る		
授業概要	基本的なシャンプーング技術を実習にて習得・ヘアカラーによる塗布の手順・染毛剤と染毛料の塗布、染毛剤の調合、新生毛と既染部の塗布技術の理解と習得		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	シャンプー概論	クロス掛け、ブラッシング、シャンプーング手順 (サイド) を理解する	
8～30	シャンプー技術	サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する シャンプー一連の手順、リンス、タオルドライ、誘導、ヘアドライ バックシャンプー等1連の操作手順を習得する	
	ヘアトリートメント	トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ 操作手順を習得する	
31～42	テスト		
43～46	カラー概論	カラーの目的、カラー剤の種類、カラー用具、塗布の手順について学ぶ	
47～65	酸化染毛剤	タイプ別の塗布 (新生毛、リタッチ) 技術、乳化、コーミング等の実習する 白髪染め (新生毛、リタッチ) 技術をウィッグを使い実践作業を行う ロング、ショートヘア技術・スライシング・ウィービングを学ぶ	
66～72	酸性染毛料	塗布順序、コームテクニック (ロング、ショート) を学ぶ	
到達目標	理容師に必要なヘアカラーの知識と技術を身に付ける		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀 (100～90) ・優 (89～80) ・良 (79～70) ・可 (69～60) ・不可 (59点以下) の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	サロンワーク（コールド・ネイル）	授業方法	実習
開講学期	前期・後期	年間授業	60時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	清藤 千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	「理容技術理論 I」 「理容実習 I」 公益社団法人理容美容教育センター		
教育目標	コールドパーマメントウェーブの用剤・用具・テクニックの修得とネイル技術を習得し 理容室において必要な接客や技能を身に付け安全で安心な理容技術者の育成を図る。		
授業概要	ボリュウムとロッドの選定や毛束の角度の出し方を学ぶ。また、ロッドの形状によるウェーブ、 カール、ロール仕上がりを見る。		
時間外学習	理容理論		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～3	オールバックスタイル	男性の基本スタイルを学ぶ。	
4～7	サイドパート	流行・時代・世代にとらわれず好まれるスタイルを学ぶ。	
8～11	サーファースタイル	男性・女性を問わず好まれるスタイルを学ぶ。	
12～31	各スタイルの仕上げ	用剤の塗布の仕方や反応のチェックなどを行う。	
32～36	ネイルケア	手指消毒・ファイリングキューティクル処理・マッサージ・バッフィング 等を学ぶ	
36～60	ネイル技術	ネイルケア・ネイル塗布（ベースコート・カラーリング・トップコート） を習得する  アーティフィシャルネイル（展示）ネイルアート（フレンチ・マーブル） を習得する  フットケア・手足のマッサージを習得する	
到達目標	お客様の個性・容姿・服飾・好み・流行などを考えたパーマスタイルデザインの修得。 ネイル検定3級取得に向けた基礎的ネイル技術の習得。		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階 で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意			

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	デザイン工学(刃物工学・デザインカット)	授業方法	実習
開講学期	前期	年間授業	60時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	仲田大吾郎・山下哲二・岡 省吾	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般(カット・シェービング・ヘアカラー等)		
テキスト			
教育目標	デザインヘアをつくるための目的に応じたシザーズやコームの持ち方・操作・技法を学ぶ。 理容師として必要な刃物の構造や頭部の成り立ちを理解し、それぞれに対応するヘアデザイン設計の仕方を学ぶ。		
授業概要	基本のカット順序の応用、それぞれの長さと共に変化するカット技法の違いその範囲に納まるスタイルの理解を図る。 刃物の切れ味や研磨の影響、金属の性質・硬さなどを理解し実際に研磨を行い理解を図る。		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	刃物の構造を知る	レザー・シザーズの種類や構造を理解する	
8～14	刃物の研磨	レザー・シザーズの研磨技術を学ぶ	
15～21	頭や顔のバランス	頭部の成り立ちを理解し、相モデルによる顔のデッサン、顔形を知り特徴を理解しながらヘアデザインの基本を学ぶ 顔部の3つの形の特徴を学び、各型のカバーポイントを理解する 頭部の3つの形の特徴を学び、各型のカバーポイントを理解する	
22～26	頭や顔のバランス総合	学んだことを活かしデザインヘアを描く 各自が書いたデザイン画に基づきカバーポイントやセールスポイントなどのコンセプトを発表する	
27～29	テスト		
30～37	カットの実際理論	デザインヘアの基本原則・用具の持ち方と操作を学ぶ	
38～43	カットの実際	デザインヘアのカット技法・ワンレングス/グラデーショ/スクエア/レイヤーを理解する ブロッキング・ワンレングスカット グラデーションカット/インサイドグラデーション アウトサイドグラデーション スクエアカット・レイヤーカット	
44～51	確認		
52～59	実習	レディースカットの一例を学ぶ	
60	テスト	各技術の復習・確認	
到達目標	理容師として必要な得た知識を、一人一人に合ったスタイルなどを提案し、それを活かせるよう基礎的技術の向上を目指す。		
評価方法	1・技術の確認 90%    2・出席状況 5%    3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90) 優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意			

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	メンズスタイル (ミディアムカット・アイロン技術)	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	60時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	清藤千秋・坂本康正	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論』『理容実習』公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	各技法の勉強も含めカットのシステム及び技術姿勢を理解する アイロンをぶれないようにしっかり持ち均一の熱・圧力・テンションをかけれるようトレーニングする		
授業概要	寝かせる部分と刈り上げる部分を組み合わせるスタイルでスタンダードヘアカットの基本を理解を図る パーマネットウェーブの効果をアイロンを使用して同じような効果の理解を図る		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	理論	中髪型（ミディアムヘア）スタンダードヘアの基本型を学ぶ	
5～8	技術	スタンダードヘアのカット技法（すくい刈・連続刈・押し刈・固定刈・指間刈・回し刈・直鋏）を学ぶ	
9～29	技術	ミディアムヘアのカット順序はシステム化されて合理的に短時間で仕上げられる。細かく規定されているが、決められた位置や姿勢を行いコームの運行角度／櫛数を正確に繰り返し覚える。クリッパーワーク・連続刈・すくい刈・固定刈・指間刈・直鋏・クリッパーラインのぼかし・髪際部/もみあげ/ネック周辺の処理を習得する	
30	テスト		
31～44	理論	アイアニング 持ち方と技法を学ぶ	
45～49	技術	温度を110～130度に設定し平型・細丸アイロンでショートヘアの根元を曲げアイパー技術を学ぶ。	
50～59	技術	温度を110～130度に設定しあらかじめ立てたデザインに沿ってカールをつくる技術を学ぶ。	
60	テスト		
到達目標	最大のパートナーであるお客様の信頼を得るために技術を磨くとともにお客様から喜びを受け取るよう理解を深める		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意	国家試験必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	シェービング・エステ	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	60時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	清藤 千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論』『理容実習』公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	メンズ・レディース・ブライダルなどのシェービング技術とエステ技術の両方を学ぶ		
授業概要	お顔そりからデコルテや背中までカミソリを使ったシェービングケアを学ぶ		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	理論	皮膚の構造・感覚やひげ、衛生面や感染症、シェービングの種類について学ぶ。	
8～11	導入	シェービングを実現するための作業姿勢・位置・イスの操作などを学ぶ。	
12～14	レーザーの持ち方 運行操作	神経を使う技術の為、レーザーの持ち方から操作の原理を理解する。	
15～25	メンズシェービング	シェービング及びグルーミング術を理解する。	
26～40	マニピュレーション マッサージ サクションマッサージ	フェイシャルトリートメント・フェイシャルケアの目的をよく理解し適切な処置ができるよう学ぶ。	
41～45	レディースシェービング	女性の繊細な肌に効果的なシェービング技術を理解する。また、器具・用具・化粧品を含め十分な理解と眉・頸部などのデザイン・カウンセリングを学ぶ。	
46～50	マニピュレーション マッサージ サクションマッサージ	レディースシェービング前後の処置として効果的な技術を理解する。	
51	テスト		
52～55	エステティック	スキンケア（クレンジング～パック剤・使用機器まで）を理解する。	
56～59		フェイシャルケア（フェイシャルトリートメント）	
60	テスト		
到達目標	最大のパートナーであるお客様の信頼を得るために技術を磨くとともにお客様から喜びを受け取れるよう理解を深める		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意	国家試験に必要なと思われる項目であり注意を喚起しながら講義を進める。		

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	デザインカット	授業方法	実習
開講学期	前期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	選択専門
担当者	清藤 千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	デザインカット資料		
教育目標	デザインカットの基本パターンを習得し、デザインされたいろいろなスタイルを表現する。また、レディースカットなどを応用してカットからスタイリングまでを習得する		
授業概要	ブロッキングから仕上げまで基本的パターンと応用を効率よく習得する。		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	理論	デザインカットの基本パターンについて学ぶ。	
8～42	技術	ブランクカット・ストロークカットなどミニシザーズの操作性、表現性習得する。シザーズとコームを持つ手役割分担の必要性を学ぶ。頭部全体を区分し（ブロッキング）、各部分の組み合わせによるスタイリングの重要性を学ぶ。ストロークカット・チョップカット・レザーカットなど応用として学ぶ。	
43～64	応用技術	応用としてスクエアラウンドのクラシカルカット及びセットを学ぶ。	
65～79	サロンスタイル	外部講師によるサロンスタイルを学ぶ。	
80～87	総復習		
88～91	試験（ウィッグ）	デザイン構成からスタイリングまで実際に行う。	
到達目標	各デザインのパターンと仕上がりの技術を修得する		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意			

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	カラーテクニック	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	120時間
授業単位数	4	必修・選択区分	選択専門
担当者	横山 哲也	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・ヘアカラー等）		
テキスト	メーカー提供の資料を使用。		
教育目標	カラーの塗布が素早く丁寧に仕上がるようにする 色彩学を学び、その人に合ったカラーを提案できるようにする。		
授業概要	プリントや映像などを使用する。相モデルでカラー塗布の練習をする。		
時間外学習			

授 業 計 画

時間	項目	内容
1～2	はじめに	準備物の確認やカラーについての理論
3～7	グレイカラー	グレイカラーの理論 ・ 塗布練習
8～15	ファッションカラー	ファッションカラーの理論 ・ 塗布練習
16～23	毛髪化学	毛の構造、特徴を理解する 毛束を使用しての実験（脱色や発色）・グレイカラーとファッションカラーの違い
24～52	カラー剤の塗布	グレイカラーの理論 ・ ウイッグにて塗布練習 ファッションカラーの塗布練習 ウイッグにてウィービング等のテクニック説明 相モデルにてカラー剤塗布練習
53～67	実践講習	カラーメーカーによる調剤から塗布までの理論及び実技指導
68～111	カラー剤の塗布	相モデルにてカラー剤塗布
112～120	まとめ	カラー手直し ・ 筆記試験
到達目標	理容師として必要なカラー技術と知識を身に付ける	
評価方法	1. 技術の確認 90% 2. 出席状況 5% 3. 授業態度 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする	
履修上の注意	持参用品の忘れ物のないように。	

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	育毛・サロンテクニック	授業方法	講義・実習
開講学期	前期	年間授業	35
授業単位数	1	必修・選択区分	選択専門
担当者	森澤佐枝・仲田大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般（カット・ヘアカラー等）・理容業全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	ヘッドスパ検定公式テキストブック		
教育目標	癒しの技術であるヘッドスパから美と健康に関する技術・製品の研究開発を行い、新たな理容産業の発展と進歩に取り組み美と癒しを通して人々に幸福と健康を提供できる知識を深める		
授業概要	ヘッドスパに必要な人体生理学や環境に配慮した用品の選択や技術の習得を図る		
時間外学習	技術の自己研鑽		

### 授 業 計 画

時間	項目	内容
1～3	はじめに	タオル、クロスのかけ方・ブラシの持ち方・姿勢・手順を学ぶ サイドシャンプー（すすぎ・すすぎ技術の実際）シャワーヘッドの持ち方などを学ぶ 適正な首の位置と高さを理解し手順を習得する
4～7	スパ実践	相モデルにて実践を行い習得する ヘッドマッサージやカウンセリングを実際に行い理解を深める
8～14	スパの理論	ヘッドスパに関する基本的理解を深める 人体解剖学、人体生理学などを学ぶ カウンセリングに関する基本的な理解を深める 協会の推奨するヘッドスパの価値を理解する
15～18	カウンセリング	カウンセリングの目的と重要性を学ぶ カウンセリングのツールを学ぶ 洗浄剤（シャンプー剤）に必要な根拠の理解を深める ヘッドスパのカウンセリングを理解し応用する
19～25	基本テクニック①	ヘッドスパの効果を理解し、基本的なテクニックを習得。 1、基本テクニックの習得 2、安定した穏やかなリズム 3、お客様の頭や体に負担を掛けない技術 4、循環器系の流れやリンパ節を理解した技術 5、頭部の筋肉を理解し、ほぐす技術 6、頭皮や毛髪に負担を掛けない技術
26～30	基本テクニック②	ヘッドスパの基本テクニック ほぐす・・・皮膚と筋肉をつまむ、挟む等の筋肉に作用させる。 ストレッチ・・・手掌を使い筋肉や腱をのばす方法 圧迫法・・・両手掌や指を使い、肌に密着させながら圧迫する方法 打法・・・手掌、手掌外側面、こぶし、指の先端を使いリズムカルに打つ方法 シミュレーション
到達目標	基本的なスキャルプトリートメントからのヘッドスパ検定3級取得を目標とする	
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする。	
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。	

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	エステティックテクニック	授業方法	講義・実習
開講学期	後期	年間授業	120時間
授業単位数	4	必修・選択区分	選択専門
担当者	清藤 千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『認定フェイシャルエステティシャン』 一般社団法人 日本エステティック協会		
教育目標	正しい最も難しく大切な技術を習得し最良の技術提供ができるようする。		
授業概要	法律、生理解剖学、皮膚科学、化粧品成分、消毒法、栄養学、基本手技などを学びながら『美』・『健康』・『治療』に関心を持たせる。		
	健康的な美肌づくりを目標の一つ一つ意味を理解する。		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
後期			
1～8	エステティックとは/生命活動とホメオスタシス	本質と領域/法令遵守/生命活動の基本原理などを学ぶ	
9～16	身体のしくみと働きⅠ/栄養の知識	「働き」「作り」を対比させて解剖生理学として学ぶ。また、健康と美容の基礎となる栄養を理解する。	
17～24	皮膚のしくみと働きⅠ/Ⅱ	スキンケアの方法として「皮膚科学」を学ぶ。さらに、皮脂膜の役割や表皮のターンオーバー、真皮付属器官などについても深く学ぶ。	
25～32	化粧品の種類と働き/衛生と消毒	化粧品の特徴・種類・原料・使用上の注意事項を知る。また、快適なサロン環境に求められる具体的な消毒法や衛生措置について学ぶ。	
33～40	エステティックカウンセリングとは/フェイシャルトリートメントの基礎知識	最も基本となる「エステティックカウンセリング」について正しく学ぶ。また、「健康な美肌作り」を目標に1つ1つの手技の意味を理解する。	
41～48	筆記試験		
49～56	フェイシャルトリートメントの基本	トリートメントの基本的な流れを把握し、成り立ちについて理解する。	
57～64	フェイシャルトリートメントの組み立て方	お客様の皮膚状態や生活環境、禁忌事項等を確認し技術を組み合わせる。	
65～72	カウンセリング クレンジング・スキンチェック	来店目的・皮膚状態の観察・生活習慣や日常の手入れ方法・禁忌事項・施術内容やトリートメント方法の選択 メイクなどの汚れを取り素肌状態にてトラブルなど皮膚状態を確認する。	
73～86	フェイシャル・ボディ	外来講師によるサロン技術の実際	
87～94	ディープクレンジング・電気トリートメント	深部洗浄で毛穴の皮脂などを除去する。トリートメント効果は高いが禁忌事項に注意する。	
95～102	フェイシャルマッサージ	体液循環の活発化。筋肉などの衰えの回復。リラクゼーション。	
103～118	マスク・仕上げ・アフターカウンセリング	マスクは皮膚状態に合わせたタイプを選択し、化粧水や乳液などを塗布し保護する。トリートメント内容の説明や効果の実感、ホームケアアドバイスなどを理解し練習する。	
119～120	実技試験		
到達目標	サロンで実践する基本技術を取得し認定フェイシャルエステティシャン 初級取得を目指す。		
評価方法	1・筆記及び技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意	過去の出題傾向などから必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める。		

年度	2023	学科・学年	理・2
授業科目	ミディアムカット	授業方法	実習
開講学期	前期	年間授業	40時間
授業単位数	1	必修・選択区分	選択専門
担当者	清藤 千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	「理容技術理論」「理容実習 I」「理容師実技試験課題技術の解説」 公益社団法人理容美容教育センター		
教育目標	理容技術の基礎となる。中庸のスタイルでカットのシステム及び技術姿勢を十分に理解する。		
授業概要	理容師として必要な知識・技能をしっかりと身につける。		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
前期			
1～14	理論	基本姿勢、姿勢の変化、用具の持ち方と操作 カットシステムを理論的に学ぶ。	
15～39	技術	理容技術はすべて体を使い行うため、技術の意味を理解してから体の動かし方を学んでいく。次に基本足位・基本姿勢を習得する。また、体に無理のない自然な動きを作業面に正対しながら動く。用具の持ち方を正確に覚える。技術姿勢を十分理解できたら、技術者の位置を確認しながらカットシステムに沿って技術の習得を行う。	
40	最終試験	技術の実際 国家試験同様のウィッグを使用し行う。	
到達目標	各種大会や国家試験合格に向け技術の習得をする。		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意			